*Opening remarks for the 25th annual meeting
of the Japanese Society of Inflammation and Regeneration*
Nobuyuki Miyasaka*

第25回日本炎症・再生医学会総会開催にあたって

宮 坂 信 之 *

第25回日本炎症・再生医学会総会は平成16年7月13日(火), 14日(水)の両日, 東京の京王プラザホテルにて開催されます。第25回という節目のときに本学会を開催できますことは, 私及び私の教室にとってきわめて名誉なことであり, 責任の重さを痛感しております。

この総会のテーマは「炎症の人為的制御」です。おりしも私の専門分野の膠原病・リウマチ学では抗サイトカイン療法の目的で用いる生物学的製剤が関節リウマチの治療に導入されつつ, その卓越した抗炎症効果と関節組織破壊阻止効果が注目されています。しかしその一方で, 本治療によって日和見感染症の併発などの問題が起こることも明らかにされつつあり, 炎症を人為的に制御することの問題点も露呈されつつあります。このような現状において, 本総会で「炎症の人為的制御」について最新の知見を持ち寄って討議することはきわめて時宜を得たものであると考えます。

本学会は日本炎症学会として発足しましたが, 現在は炎症学のみならず, 再生医学という一見異なる学問を「異文化交流」の形で取り上げ, さらに2つの学問を融合させたユニークな学問領域を作り上げようと努力しているところです。特に近年の学問の進歩は, 炎症学, 再生医学に新たな息吹を与え, 学問は日進月歩となっていることは疑う由もありません。炎症研究においては, 遺伝子組み換えと遺伝子導入技術を駆使した各種の生物学的製剤の創成には目を見張るものがあります。また, 再生医学分野の発展は特にめざましいものがあり, 科学性, 倫理性, 社会性などの点も加味しながら, 一般社会からも大きな注目を集めています。この場合の再生医学とは, 炎症後にみられる線維化などの再生過程のみならず, 幹細胞から当該の臓器を再生するという画期的な学問を指しています。昨今, 「異種格闘技」がマスコミで人気を博しておりますが, これらの2つの学問がドッキングをしながら, ますます発展する場を本総会が提供することができれば望外の喜びです。

本学会のもう一つのユニークな点は, 参加する学会員が大学だけに偏らず, 広く製薬会社などの企業研究者をも対象としている点です。シンポジウム及びワークショップの演者に企業の第一線で活躍している研究者を積極的に登用するとともに, 一般演題の座長にも製薬会社の方々にご参加いただく予定にしております。この学会を支えている大きな力として炎症研究振興会がありますが, ここに加盟している製薬会社には本総会に経済的な支援のみならず, 学術的側面でも大いに寄与貢献していただく所存です。この総会を通じて新たな「産学協同」の芽が生まれ, 大学と製薬会社, さらに研究者同士とを結ぶ協同研究の絆が強化されることを期待しております。

*Department of Rheumatology, Graduate School of Medicine and Dentistry, Tokyo Medical & Dental University
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 膠原病・リウマチ内科学 教授

特別講演1では、東海大学総合医学研究所長の黒川 清先生に「我が国の生命科学の現状と未来」と題して日本学会議会長を勤めるお立場から辛口の、そして夢のあるお話をいただく予定にしております。特別講演2では、我が国から世界に先駆けてアルツハイマー病の治療薬を発信した京都大学大学院薬学の杉本八郎先生に、創薬研究におけるセレンディピティの重要性をお話いただきます。教育講演では、1)炎症のナノテクノロジー、2)核内受容体を介した細胞内機能解析機構、3)硬組織形成制御の分子機構、4)細胞周期と再生、5)自然免疫システムの作動の分子機構、6)生物製剤の薬剤経済学の6つを企画しており、炎症と再生医学研究の最先端をわかりやすく紹介していただく予定です。いずれの演者も当代を代表する第一線の研究者ですのでご期待下さい。シンポジウムは、1)COX-2インヒビターの最近の話題とその功罪、2)国の再生医療プロジェクト、3)リウマチ性疾患における生物学的製剤の有用性と問題点、4)血管新生と炎症・創傷治癒・癌、5)低酸素応答の分子機構と炎症・再生、の5つを取り上げます。このうちの2つは製薬会社によるスポンサード・シンポジウムの形を取っていますが、これは本学会初めての試みです。ワークショップは13を予定しており、炎症と再生医学及び両者の接点に関する最新のトピックスを取り上げて討論をお願いすることになっています。これらのワークショップでは、ナノサイエンス、分子ターゲット療法、遺伝子療法、再生医療など、これからの創薬研究には必要不可欠のキーワードがふんだんに出てきますので、これさえ聴けばup-to-dateな知識を取得できることは請け合いです。このほか、ランチョンセミナーは2日間で6つが用意されており、おいしいランチをほおばりながら最新のトピックスが聴けるような配慮がなされています。

このように、今年の7月13、14日は新宿の京王プラザホテルにおいて炎症と再生医学のフェスティバルが開催されます。新宿で新たなサイエンスを学び、帰り道にショッピングと素敵なお食事を楽しむのも一興です。皆様の積極的な参加を期待しております。

最後になりましたが、本総会のプログラムの企画・立案に多くの先生に御協力をいただきましたことを、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。今後とも、応募演題の選定などに引き続きご支援を賜りますことをお願い致します。また、本総会を陰ながら支援していただいている炎症研究振興会、日本炎症・再生医学会事務局に改めて御礼を申し上げます。